

# 学生の立場から見た授業アンケート

## －授業評価アンケート集計結果をみて－

都市教養学部理工学系機械工学コース 3年

川原田 雅也

1年生の時から全ての授業で授業評価アンケートを書いてきたが、今回のこの機会があるまでレポートやリーフレットが発行されているとは知らなかった。

学生の立場からしてみれば、授業評価アンケートをじっくり書いていると講義時間や演習問題を解く時間が減ってしまうので、乱雑に書いてしまっているのが現状である。これでは意味がないので、アンケート実施日には授業時間よりも早く教室に来てアンケート用紙を配ったりなんらかの対応を教員側がすべきだと思う。

また、都市教養プログラムや理工系共通基礎科目等の大きなくくりで結果を出しても意味をなさないと思う。このくくりでは、1つのくくりに対して授業数が多すぎであり、学生がこの結果を見て、履修に反映させようとは思わないはずである。一つ一つの授業ごとに結果を出すべきだと思う。

したがって学生にアンケート結果のメリットを与え



るには、毎年シラバスに過去3年分程の同じ授業アンケート結果を一部載せるべきだと思う。例えば、{教員の説明がわかりやすかった} や {この授業を受けて満足したか} などの項目を記載すれば、学生が授業を選ぶ一つの指標にもなると思う。それによって、評価の高い授業は受講人数が増え、逆に評価の低い授業は受講人数が減り、良くない授業が淘汰され、学校全体としてのレベルが上がるのではないかと思う。